動物世界遺産

Red Data Animals

レッド・データ・アニマルズ

東南アジアの島々 5

第4回配本 第5巻—東南アジアの島々

絶滅の危機にさらされた
2580種の動物たち。
彼らを窮地に追い込んだ私たちが
今できることは何だろう。

講談社

定価：本体4,700円(税別)

[動物世界遺産] レッド・データ・アニマルズ

IUCN

本書の売り上げの一部は、野生動物を保護するために使われます。

WWF

講談社創業90周年・IUCN(国際自然保護連合)創設50周年記念企画 IUCN公認 WWFジャパン協力

RED DATA ANIMALS

解説

マークの意味

CR
[Critically Endangered]
絶滅寸前種

CR

近い将来、高い確率で野生では
絶滅に至る危機にある。

EN
[Endangered]
絶滅危惧種

EN

絶滅寸前種について、近い将来、
野生では絶滅する恐れがある。

VU
[Vulnerable]
危急種

VU

野生では中期的に
絶滅する恐れがある。

哺乳類 ……114
MAMMALS

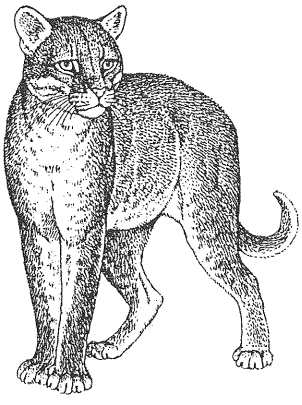
鳥類 ……152
BIRDS

爬虫類 ……201
REPTILES

両生類 ……207
AMPHIBIANS

彼らにとっての最大の脅威は、生息地の破壊、熱帯林の減少である。2000年の時点で、すでに本来の生息地の80%が失われたと見積もられている。現在の生息頭数に関する正確な情報は得られていないが、1993年のWWF(世界自然保護基金)による見積もりでは、スマトラ島に9200頭、カリマンタン島に1万2300～1万5500頭が生息しているという。カリマンタン島においては現在も生息地の大規模な改変がつづいており、1980年代から頻繁になった森林火災の影響もあって、彼らがすめる環境はますます狭められている。また密輸によって国外へ連れ出される例も跡を絶たない。1990年代には台湾に密輸されたオランウータンの数が3～4年で1000頭にも達したといわれ、数十頭のオランウータンがインドネシアに送り返されている。

数ヵ所のリハビリテーションセンターがもうけられ、収容された孤児たちの野生復帰への努力がつづけられているが、インドネシアの東カリマンタン州などでは帰すべき森が急速に失われているのが現状である。(渡邊)



ボルネオヤマネコ

食肉目　ネコ科

●食肉目　ネコ科

ボルネオヤマネコ

［学名］ *Catopuma badia*（*Badiofelis badia*）
［英名］ Bay Cat（Bornean Red Cat）
［サイズ］ 頭胴長50～67cm　尾長32～40cm
体重3～4kg
［分布］ カリマンタン(ボルネオ)島

VU

アジアゴールデンキャット(*Felis temmincki*)によく似て斑紋が少なく小型で、頸の周りの毛が逆向きに生える。毛衣はふつう美しい栗色で、体下面は淡く、胸や腹、四肢にはっきりしない斑点があり、顔にかすかな縞がある。尾は先端に向かって白くなり、黒い斑点がある。かつてはアジアゴールデンキャットの亜種に分類されていたが、現在は独立した種とされる。標高900mほどの深い森林や林縁の岩石地帯にすむ。小型の哺乳類や鳥類を捕食する。

1855年から1928年の間に8頭、1992年にわずか1頭が捕獲されただけという稀少な動物であるため、捕獲すれば動物商は喜んで買い取るという。インドネシア、マレーシア両国とも政府が法的な保護を決めているが、森林伐採がつづいているので、生息環境は悪化しつづけている。現在の総個体数は1000以下と推定されている。(小原)

●食肉目　ネコ科

マレーヤマネコ

［学名］ *Prionailurus planiceps*（*Felis planiceps*）
［英名］ Flat-headed Cat
［サイズ］ 頭胴長40～50cm　尾長13～17cm
体重1.5～2.5kg(1標本からの推定)
［分布］ ミャンマーからマレー半島にかけて、カリマンタン(ボルネオ)島、インドネシアのスマトラ島

VU　【カラー➡ p.26】

頭部はやや平たく、鼻面は短い鼻先に向かって下降する。耳は丸く、小さい。四肢は短く、足は小さくて細長く、指の間に膜が発達している。尾は短い。門歯はよく発達して魚などを捕らえるのに適し、大臼歯は鋭く大きい。体色は赤褐色で背は黒く、喉、腹、四肢に暗色斑がある。下面は白い。頬に黒い縦の筋縞がある。毛衣は厚く柔らか。

生息地は森林や低木林。沼沢地および家畜用の溜め池などの水辺を好む。夜行性の傾向が強く、川や沼の岸を歩き、カエルや魚をよく捕食する。鳥を捕らえることはないとの報告があり、ニワトリ小屋を襲うことはないといわれる。えものの捕らえ方や臭いづけなどの行動は、イタチ類やジャコウネコ属(*Viverra*)に似ているとされる。おそらく泳げる。

減少の原因は干拓によって生息地が狭められたことと、汚染、とくに油と重金属による汚染が脅威とされる。個体数は少ないとみられるが、数値は報告されていない。分布域にある各国とも本種の狩猟と商取引を禁じているが、ブルネイでは何の法的規制も定められていない。(小原)

●食肉目　ネコ科

トラ(スマトラトラ)

［学名］ *Panthera tigris sumatrae*
［英名］ Tiger（Sumatran Tiger）
［サイズ］ 全長249cm(1例)
体重100～140kg(雄)、75～110kg(雌)
［分布］ インドネシアのスマトラ島

EN　【カラー➡ p.24】

本巻で扱うスマトラトラは、小型で体色はくすみ、黄色みがかった赤褐色。縞は黒く幅広く、縞の数が多い。肩から後ろでは2本に分かれた縞が、束のようになる。頬ひげはよく発達する。

スマトラ島にだけ分布する。減少しつつあるが、住民は害獣とみなして駆除の対象にしている。し

食肉目

イヌ、ネコ、クマ、イタチ、アシカ、アザランなどの仲間。世界中に生息しているが、オーストラリアの食肉目は人間とともに海を渡ったものである。大小さまざまの動物を食べる捕食者だが、植物を食べる種もいる。鋭い爪のついた力強い脚と、優れた運動能力、肉を裂く鋭い歯をもつことなどが共通の特徴。

かし、最近になって農業に被害をもたらすイノシシの数のコントロールのために、トラが大きな役割を果たしていることが理解されつつあるという。トラの生息地ばかりでなく、えものの生息地も狭まっているため、減少がつづいている。政府関係者も加わった保護計画が1992年に決定、1998年にスタートし、その結果が注目されている。最近の個体数の見積もりは400～500とされている。

なお、本巻の地理区内には、ジャワトラ（*P. t. sondaica*）およびバリトラ（*P. t. balica*）の分布域が含まれるが、前者は生息の適地がすべて破壊されてしまったため絶滅。後者も1937年に射殺された1頭が最後の個体とみなされ、絶滅したものと考えられている。

トラ全般については、第4巻「インド、インドシナ」の巻で詳述している。（小原）

食肉目　イタチ科

●食肉目　イタチ科

ボルネオイタチアナグマ

［学名］ *Melogale everetti*（*M. orientalis*）
［英名］ Kinabalu Ferret-badger
［サイズ］ 頭胴長30～33cm　尾長12.5～15cm
［分布］ マレーシアのカリマンタン（ボルネオ）島

VU

サバ州にあるキナバル山の標高1070～3000mに局限されて分布する。インドイタチアナグマ（*M. personata*）またはジャワイタチアナグマ（*M. orientalis*）の亜種とされることもある。しかし、歯はシナイタチアナグマ（*M. moschata*）に近い。

体上面は暗褐色で、下面は淡い。白もしくはクリーム色の縞が頭部から背に向かって走る。この縞が狭く短いことで、スカンクアナグマ属（*Mydaus*）と区別される。見かけはイタチとアナグマの両方に似ているが、生態的地位と形態はスカンクに似ている。

近縁種の生態から地上で生活し夜行性で、山地林の中でミミズ、トカゲ、鳥、ネズミなどを捕らえて食べ、1産1～3子で、攻撃されると、肛門腺から分泌液を放出して反撃するとみられる。

1940年に新種記載されたときに、すでに「ふつうに見られる種ではない」と述べられていた。人間の活動による圧迫で、限られた分布地がさらに狭められている。7万8000haのキナバル国立公園は保護地域であるが、銅山があるうえに観光客の増大が心配されている。しかし、1987年には、国立公園内の個体群は安定していると報告されている。（小原）

●食肉目　イタチ科

パラワンアナグマ

［学名］ *Mydaus marchei*（*Suillotaxus marchei*）
［英名］ Palawan Stink Badger
［サイズ］ 頭胴長32～46cm　尾長1.5～4.5cm
体重2.5～3kg
［分布］ フィリピンのパラワン島、カラミアン諸島

VU

イタチ属（*Mustela*）に近いが尾が短く、四肢が太く、耳が小さくて、アナグマらしい体形をしている。毛衣は上面が褐色から黒、下面は茶色で、頭頂から肩にかけて黄色の斑紋が走る。鼻先はよく動き灰白色。肛門部には毛がなく、皮膚が裸出するという。肛門腺はよく発達する。1mも離れた所に分泌液をかけたという報告があり、仮死状態（死にまねをしていたともいわれる）で運ばれ、突然分泌液をとばして逃げ去ったという観察記録もある。

草原や深い藪地にすみ、農耕地にも出没する。ほかのアナグマと同じように穴を巣にし、地上で食物（小動物と思われる）を漁る。

住民は腺を取り除いて肉を食べ、薬として利用する。個体数などの情報はないが、分布がきわめて限られていることから、危機的な状態にあるとみなされている。（小原）

●食肉目　イタチ科

インドネシアヤマイタチ

［学名］ *Mustela lutreolina*
［英名］ Indonesian Mountain Weasel
［サイズ］ 頭胴長29.7～32.1cm　尾長13.6～17cm
体重295～340g
［分布］ インドネシアのスマトラ島、ジャワ島

EN

本種は鮮新世（530万年前から200万年前）にアジア大陸から分布を拡大し、現在のジャワ島、スマトラ島の標高1000～2200mの山岳地帯に遺留分布しているものとみられている。ヨーロッパミンク（*M. lutreola*）と大きさも体色も似る。枯れ葉に似た褐色で、喉に白い斑紋がある。頭骨の形態がタイリクイタチ（*M. sibirica*）に似ていることから、同種とみなす見解もある。

生活様式はタイリクイタチに似ていると推測さ

動物世界遺産
レッド・データ・アニマルズ——5
東南アジアの島々

発行日……2000年9月11日　第1刷

編著者……小原秀雄／浦本昌紀／太田英利／松井正文
発行者……野間佐和子
発行所……株式会社 講談社

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
電話……編集部—03-3944-1293／販売部—03-5395-3624／製作部—03-5395-3615
印刷所……凸版印刷株式会社
製本所……株式会社若林製本工場
用紙……ダイニック株式会社／王子製紙株式会社

定価はカバーに表示してあります。

●本書の無断複写(コピー)、転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。
●落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
●この本の内容についてのお問い合わせは、総合編纂局あてにお願いいたします。

©KODANSHA Ltd., 2000, Printed in Japan
N.D.C. 480 211p 30cm
ISBN4-06-268755-0（総C）